

# くらふと

## 県育協だより

発行  
鳥取県子ども家庭育み協会  
広報委員会  
第22号

## 子ども・子育て支援新制度に変わって

鳥取県子ども家庭育み協会 会長 大橋和久



子ども・子育て支援新制度がスタートし、半年が経過しました。この新しい制度は、「すべての子ども・子育て家庭を対象に質の高い教育・保育」を担保することを基本理念としています。

保育所側からすると保育所は保育指針にあるとおり、従来から0歳児から「養護」と「教育」を一体とした「保育」として行ってきており（これまで保育指針は幼稚園教育要領との整合性を図るため3回改訂されたにもかかわらず）、何故、新制度では「教育」と「保育」と示されたのか、疑問を呈さざるを得ない。あたかも保育所には「教育」がないかのごとく、社会的に誤解を与えかねず、どうしても納得がいかない。

さて、そのことはともかく就学前すなわち乳幼児期の育ちがいかに大切か、なぜ幼少期に積極的に教育（保育）すべきなのか、どうして幼少期に適切な働きかけが必要か、保育関係者の一人として再度考えてみなければならないのかもしれません。

最近よく引き合いに出される米国のノーベル経済学賞を受賞したジェームス・ヘックマン教授の研究は、第一に、就学前教育（保育）はその後の人生に大きな影響を与えることであり、第二に就学前教育で重要なのは、IQに代表される認知能力だけでなく、忍耐力、協調性、計画力、といった非認知能力も重要とした点を実証的に明らかにしました。

日本の教育基本法には、「個人の尊厳を重んじ、心理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」と教育の目的が書かれています。

第1条にも、教育は人格の完成をめざすと、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた健康な国民を育成することが目的に掲げてあります。

現在の政府が目指そうとしている「アベノミクス」に象徴される経済至上主義がもたらすも

のが、果たして真に日本人が求めていくべき方向なのか。現在の子ども・子育て新制度が本当に一人の人間として豊かさと人間らしい発達を遂げるための仕組みなのかどうか。

そこには単なる少子化対策や労働政策であったり、教育の金銭的収益を高めるための手段、方法になりはしないか。現政権は最近では幼児教育の重要性を根拠にして、その全面無償化を主張する政策もとりざたされています。しかし1千兆円を超える負債を抱える国の財政状態の中で現実的なことなのか。その前に優先すべきことがあるのではないかと。

日本では子どもの貧困が問題視されているが、子どもの貧困は、子どもが生きる権利、成長し発達する権利、教育を受ける権利、家庭環境で養育される権利等、憲法および子どもの権利条約で保障された子どもの権利を侵害するものではないか。

阿部彩氏（首都大学東京教授）は、著書「子どもの貧困」の中で、保育所は一貫して乳幼児期における最初の「貧困の防波堤」としての大きな役割を担ってきたと断言しています。保育所はどの階層の家庭の子どもも等しく「保育」することにより精神的にも身体的にも発達を保障してきたことは紛れもない事実です。

子ども・子育て支援新制度は、質の高い教育、保育を担保するとしています。しかし、国は、幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、19人以下の小規模保育所、家庭的保育など、まさに多様な保育を保護者が選択するシステムに変えました。これは単なる利用者（保護者）の利便性を担保することを優先した結果ではないのか。

我々保育関係者は、幼保連携型認定こども園への移行への可能性を含め、従来から行ってきた保育機能、役割を再認識するとともに、本当の意味の「保育の質」を高めるために、子どもたちの生活や発達の連続性、個と集団の育ち、小学校への接続など「保育の専門性」を一層積み重ねていく必要があると思います。

# 第58回全国私立保育園研究大会 鳥取大会を終えて

全国私立保育園研究大会 実行委員長 福田 泰 雅

第58回全国私立保育園研究大会鳥取大会の開催にあたり、県育協の皆様には大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

全国大会は全国6ブロックの持ち回りであり、ブロック内での順番によっていざれ打診があることはわかっていたものの、いざ開催を受けるには多くの不安がありました。その不安とは、開催の内容、開催の規模に対する財政面を含めた受け入れ体制でした。

まず大会内容を考えるにあたり、やはり頭に浮かんだのは、子どもたちが一人ひとり将来どのように人間らしく生き、社会を形成していくことができるだろうかということでした。第一に保育の機能面ばかりが強調され、ますます子どもから離れていく保育の世界を整

理し直し、本来保育が歩むべき道を考えること。第二に日本の社会のみならず世界の中で人間らしい生き方を創造しながら生きる人として育つためにどのような学びの構えが必要であるかを考えること。第三に子どもや社会に保育者として共感しながら自分自身が学び続ける謙虚な生き方ができるようにすることなどでした。

このように保育者として「子どもと共に生きる」本来の保育の意義を問いただし、取り戻すべく新たな出発点となることを目的として、鳥取大会がこれからの日本の保育が歩むべき道筋を明確な姿として描き出し、そこに保育の大会としての開催意義を求めました。そして全国から1、800名近い皆様を迎え、宿泊等に関する苦

労はあったものの実行委員の皆様をはじめ当日スタッフとしてご尽力いただいた皆様により、たくさんの方から賛辞をいただきました。

開催に当たっては、公私立の区別なく多くの会員の皆様が大変お世話になりました。多くの方々がそれぞれの持ち場において積極的に関わっていただいた姿を見て、与えられたことをこなすのではなく、より良いものにしようと配慮し努力する日本人の特性を見たように思います。そして日々の保育はこのように実践されているのであろうと思ひ鳥取県の保育現場の

豊かさを感じた時でもありました。改めて感謝申し上げます。



## チーム鳥取ここにあり!!

賀露みどり保育園 和田 尚 子

平成27年6月17日から6月19日迄の3日間、全国から約1、800名の参加者の皆様をお迎えし、とろぎん文化会館「梨花ホール」をメイン会場として36年ぶりに盛大な鳥取大会を行う事が出来ました。人口最小県の鳥取県でこのような大会を行うという事で、平成24年12月21日に準備委員会が発足され、平成25年6月12日には第1回の実

行委員会開催の運びとなりました。実行委員会では全国からの参加者の皆様に満足して頂ける大会となる様さまざまな議論が丹念に行われ、その中でも究極の問題は人口最小県ならではの「スタッフの確保」をどうするかという事でした。

大会の行われる3日間は平日、さらに園によっては保育士さんの数もぎりぎりという厳しい現状も少なくない中、大会スタッフとしての可能な限りの参加の願いをさせて頂きました。お願いに伺った中で「鳥取の為になるだけな一」「同じ保育という仕事に携わる仲間として協力させて頂きます」という温かいお言葉をかけて頂き、目の前が一気に明るくなったのを覚えていきます。鳥取県子ども家庭育み協会会員である公私立・福祉会のたくさんの先生に動員の御協力をさせて頂きました。又、スタッフとして大会に参加して頂いた園長先生・副園長先生方が不在の中、保育業務を担って頂きました先生



方、心よりお礼を申し上げます。私自身この大会の実行委員の一人として至らぬ所も多く、迷惑もおかけしながら皆さんにたくさん助けて頂き、たくさんの事を学ばせて頂きました。この大会を通して人と人がつながり合って力を合わせた瞬間私の中に「チーム」という仲間が存在し、「仲間って本当に素敵だな」と実感する事が出来ました。

「チーム鳥取ここにあり。鳥取の保育関係者の皆さんバンザイ」

お力添えを頂きました皆様、本 当にありがとうございました。

## 第58回全国私立保育園研究大会 鳥取大会分科会について

育成保育園 柏木 克 仁

大会2日目の分科会はIV群に分かれ26分科会が開かれました。I群の9分科会は、「子どもの育ちを考える」をテーマに保育実践を語り合う分科会となりました。中でも各分科会の提案者の発表は、各保育園の様々な理念や方針の中で、子どもと向き合い保育空間、時間、人的環境や食育、障がい児保育など、保育を考える要素について職員同士の話し合いや葛藤などが伝わってくる提案でした。そして助言者の意見を通じて、参加者が子どもの育ちを考え自園に持ちかえり新たな保育を踏み出せるきっかけになったようです。第III群は、鳥取県からの提案で今大会のテーマであるアートが開く子ども

もの世界、大人の世界が存分に実感できる、絵画、造形、音楽、演劇、ボードゲームの5分野に分かれ開催しました。初日のシンポジウムでもアートな生活をお話していただいた、ピート氏や磯部氏が、子どもの興味・関心などから、子どもの考えや発想を引き出し、共に探求しアートを楽しむことを伝えていただき、音楽の下川氏も子どもの主体性を受けとめ音楽を楽しむことを伝えていただきました。そういった分科会の中での研修がワークショップ形式なので、少人数の定員となり、もっと沢山の方に参加していただきたかったのですが、今回参加された方は、とても充実した分科会だったよう



いを共感しあいながら、よりいっ  
そうに人と人との繋がりが産まれ  
てくる分科会となりました。

## 第58回全国私立保育園研究大会 鳥取大会懇親会を終えて

むつみ保育園 森 田 明 美

郷土の銘柄が数多く並び、愛飲家  
にとっては、楽しみなコーナーと  
なりました。

アトラクションで会場を盛り上  
げたのは、郷土芸能や地元鳥取県  
で活躍中の保育士たちでした。

「因幡の傘踊り」は、鳥取県を代  
表する伝統芸能の一つということ  
もあって興味深そうに観入って  
くだったのが印象的でした。ま  
た逢鷲太鼓は、和太鼓の勇壮さと  
躍動感に魅了されていました。ロ  
ケットくれよんやジャングル☆ジ

で、全国の皆様方からも、とても  
良い評価を頂き、鳥取大会のテー  
マの思いが皆様に伝わったと思い  
ます。第IV群は、フィールドワー  
クで、県内の風土や歴史を感じて  
固有の文化を感じていただきました。  
今大会を通じて全国の皆様に、  
子どもと共に生きる保育の原点を、  
全国で一番人口の少ない県から発  
信できたのではないのでしょうか。  
その発信から少しでも鳥取県に興  
味を持っていただき、様々な方が  
大会の思い出や、お互いを思う思

第58回全国私立保育園研究大会  
(鳥取大会) 懇親会には、3会場  
に総勢約650名をお迎えするこ  
ととなりました。郷土色豊かで温  
かみのあるおもてなしをしたいと  
内容検討してまいりました。「食  
べる」「観る」「笑う」の3点をコ  
ンセプトに、鳥取の良さを全国に  
アピールしていくことで、気持ち  
も胃袋も十分堪能していただける  
のではないかと考えました。

鳥取は、美しい日本海と雄大な  
自然が育んだ海の幸、山の幸が豊  
富な場所であることは言うまでも  
ありません。この恵まれた自然か  
ら生まれた豊富な食材を活かした  
料理で十分に堪能していただく  
め当初に考案したのは、境港で水  
揚げされたマグロの解体ショーで  
した。50キロ以上もある巨大マグ  
ロが、会場内に登場し、料理長が  
慣れた手つきでマグロをさばく姿  
はいかにも勇壮で圧巻間違いなし。  
またその味たるや絶品であろうと  
考えました。



しかし、予算の関係上、止む無  
く断念することに。本当に残念で  
したが、テーブルには県産の食材  
を使った豊富なメニューが並び、  
参加者の目と舌を満足させました。  
それだけではなく、オプショント  
して、生ハムやメロンが出され、  
特にケーキバイキングは女性に大  
人気でした。地酒コーナーには、

ムは、保育士にとって身近な存在です。参加者と一体になって、会場の雰囲気を感じ上げていただきました。

毎年恒例となっている地元開催 県主催の大抽選会で、会場の雰囲気は一気に最高潮となりました。

景品として選んだ品は、鳥取県の特産品や銘菓、名産品ばかりです。

その中でも、1等の商品として用意した物は、大玉の「大栄町スイカ」です。さあ、一体誰の手へ渡るのでしょうか。私の担当したC会場では、瀬戸大橋を渡って四国の保育園に勤務されている男性に見事当たりました。本当に大喜びをされていたのが印象的でした。

また、目玉おやじのヘアクリップが中年男性に当たった時には、会場がどっと湧きました。

残念ながら抽選で当たらなかつた方にも、平井鳥取県知事より残念賞として三朝温泉の入浴剤が用意されていて、抽選で当たっても、外れても嬉しい笑顔いっぱい

やかな大抽選会となりました。

係員の数は決して十分とは言えませんが、皆様のご協力のもと鳥取県らしさを十分感じてもらっていただき、堪能していただけたのではないかと思います。

私は、今回の全国大会の実行委員(懇親会係)を担当させていた

# 各研修会報告 (7月)

## 第1回保育士研修会に参加して

住吉保育園 田中しのぶ

平成27年度鳥取県保育所(園)保育士研修会が7月4日(土)倉吉未来中心にて開催されました。

「遊びを通して子どもは何を学ぶか」ということをテーマに、鳥取大学地域学部准教授、高橋千枝先生より講演していただきました。

遊びとは何か、学びとは何か、

だき、大変不慣れではありませんでしたが、全国からお集まりの方々との出会いや笑顔にふれたことや、県内の先生方と総力をあげてこの大会と懇親会を盛り上げていけたことに深い感動を味わうことが出来、感謝を申し上げます。

また遊びを学びに繋げるためにはどうすればいいのか、これまで自分が学んできたことを保育士として実践していく中で、分かっていたようで分かっていなかったこと、できていたと思っていてもできていなかったことがあることに気づかされました。

講演の中で、高橋先生が繰り返しおっしゃっていたのは「ただ遊ぶだけでは学びにつながらない」という言葉でした。

遊びを学びに繋げるためには真

剣に遊び、遊びまわることが重要であること。そのためには保育者のしかけや仲間の存在や集団が必要で、家庭とは違う、保育所や幼稚園という場ならではの育ち作りができるような、カリキュラムの作成の大切さもおっしゃっていました。

計画が保育課程からおりてきているか、前月前週の指導案から繋がっているか。子どもの発達が捉えられているか、発達がどうなるのか。子どもたちの何を見通しているか、子どもの育ちのイメージはあるかという点を押さえて作成



するといひそうです。

また、鳥取大学の先生というこ  
とで、現在教えておられる学生さ  
んの姿なども間にいれお話される  
ので、自分自身の学生だった頃も  
つい思い出してしまいました。

保育士として、学びにつながる  
ような遊びを考えていきたいと思  
いました。

### 第1回食育研修会に

### 参加して

梅檀保育園 松井奈津子

7月5日(日)、倉吉未来中心  
において第1回食育研修会が開催  
され、「乳幼児期の食育」をテー  
マに相模女子大学栄養科学部教授  
堤ちはる先生にご講演を頂きまし  
た。

食育で目指すものとして3項目  
を挙げ話をされました。1点目は  
「成長・発達を保障すること」と  
して、発育状況や咀嚼機能の発達

に沿った食事の提供をすること。

2点目は「食を営む力の基礎を培  
うこと」として、食育を生活の一  
部として位置づけ、生活全体の中  
で習慣化され自然と身につしてい  
くよう、保育園と家庭が連携して  
進めること。3点目は「人間関係  
を含めた生活の質の向上」として、  
食事をコミュニケーションの場、  
マナーや文化を学ぶ教育の場とし  
て捉えることの3点です。

中でも印象深かったのは「食事は  
心を育む」エピソードです。苦  
手な物があつた時に「栄養が摂れ  
ていれば食べなくても良い」とい  
う対応をしていると、子どもは  
「苦手な物(事)は避けても良い」  
とインプットしてしまう。苦手な  
物に挑戦し食べられた!という達  
成感や自信になり、その積み重ね  
は、生きていく上での多様な物事  
を受け入れられる寛容な心の育ち  
や、物事を前向きに取り組む姿勢  
にもつながるといふものでした。  
小さな対応1つが、子どもの生き

方にまで関わるのだと、改めて責  
任の重さを感じました。

様々な話の中で先生が繰り返さ  
れたのは「丁寧」という言葉で  
す。環境作り、調理の工夫、食事  
の挨拶、雰囲気作り、適切な言葉  
かけ1つまで、普段の生活(保育)  
を丁寧にすることも立派な食育で  
あり、調理・栽培活動等の限定的  
な取り組みと同等に大切にすべ  
きとのことでした。

最後は保護者支援についての話  
でした。まず重要なのは保護者の  
価値観を尊重し自尊心を育むこ  
と。それが子どもや家族を大切に  
思うことにもなり、適切な食生活  
に向けた行動変容につながる。そ  
の上で改善に向けた具体的支援を  
行う事が効果的とのことでした。  
子ども達の将来につながる大切  
な今、まず私達大人が「食」への  
興味・関心を持ち、自分の生活や  
食事を見直すこと。そして、より  
一層子ども達との関わりを大切に  
し、共に「食」を楽しんでいき

いと思ひました。



### 第1回主任保育士

### 研修会に参加して

えんぜる保育園 佐藤 利枝

平成27年度鳥取県保育所(園)  
第1回主任保育士研修会が7月13  
日(月)倉吉未来中心にて開催さ  
れました。

講師にジャーナリスト、東京都  
市大学客員准教授猪熊弘子先生を  
迎え、「保育園における危機管理」

子どもの命を大切にしている保育のために」と題して、ご講演をいただきました。

研修では実際に起きた事故や先生ご自身の体験を交えながら、安全な保育の基本とは何か、保育のあり方などを分かりやすくお話して下さいました。

安全な保育の基本とは毎日、必要なことを確実に「まあ、いいか」が命にかかわる危険な芽だということをお話されました。日々の忙しさの中、「これぐらいなら大丈夫だろう」などという怠りてしまうことがあります。人数確認、食事の様子のチェックなど毎日の小さな「繰り返し」と「積み重ね」が子どもたちを事故から守るといふことに改めて気づかされました。又、子どもの状況だけではなく、保育者自身の状況(体調など)もチームで共有していくことで、互いにカバーしあえる協力体制が出来ていくということでした。そして子どもの命を守るため

には保護者の協力・理解が不可欠だということを確認しました。

安全だと信じて大切な子どもを預けた場所で起きた事故は、家族はもちろん、その子どもにかかわる全ての人たちがこの上ない悲しみを味わうこととなります。子どもたちが安全に過ごすために事故が起きてからどうするかではなく、「事故を起こさない」取り組みが大切だとお話されました。取り組みの一つとして、怖がらずに事故について詳しく知ることが重要であり、「いつ」「だれが」「どこで」「どのようにして」悲しい事故があったのか、その原因はどこにあったのかを学ぶことで、事故を防げるといふことが分かりました。

そして職員間でヒヤリハットを話し合い、データベース化していくことで事故やケガのパターンが見え、事前に気を付けることが出来るようになり、必ず事故は減ってくるそうです。

今後とも子どもの豊かな育ちを

「保障」出来るよう、安全についての知識を十分に得て、それを職員同士で共有し事故防止に努めていきたいと思えます。又、子ども一人ひとりの存在を大切にしている保育者がいてほしいです。



## 初任・初級保育士 研修①

倉田保育園 山本 大路

7月30日(木)、倉吉市伯耆し  
あわせの郷にて今年度1回目の初

任・初級保育士研修が開催されました。

今回は講師に鳥取大学地域学部地域教育学科発達科学講座教授、塩野谷斉先生をお招きし、「遊びきる子どもをめざして」子どもを「知る」というテーマで講演をいただき、その後自分の担当している子どもたちの遊びきった様子(実践)について、グループ討議を行いました。共通の話題で話し合う中で他園の保育士との交流も深まったのではないだろうか。

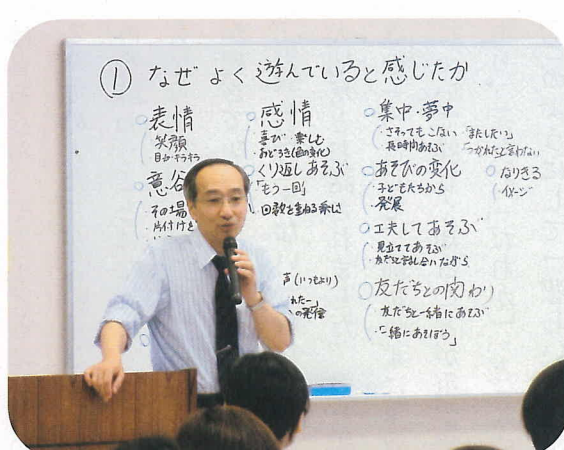
さて、今回の研修では「遊びきる」という言葉が大きなテーマだったように思います。塩野谷先生によると、「一人ひとりが自己発揮をし様々な葛藤体験を乗り越えながら、友だちと関わって十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態」を遊びきっている状態と捉えるそうですが、そこには必ず、遊びを支える保育士のはたらきかけ(言葉かけ、援助)が必要です。例えば泥だんご

作りでは、「光らせたけれど光らない」その矛盾が大きすぎると楽しくありません。ちょっと頑張らなくてはいけないけれど、ちょっと頑張ればできる。そこを見極めるのが保育士ということですよ。

うれしい感情や美しいと感じる心は、どんな言葉でも説明しきれません。突き詰めれば自分で感じることで以外にないのです。そしてその実感を作るのが「体を動かす、体験を重ねる」ことであり、最後は遊びなのだと言われました。

- 塩野谷流「遊びきる子どもを育てるための保育者心得」は以下の4つです。
- ・子どもをよく見る（↓保育実践）
  - ・よく学ぶ（↓研修）
  - ・子どもに対して学んだことを適用する（↓さらに実践しさらに学ぶ）
  - ・どうしても対応が難しい場合、他の保育者に委ねる（↓園外との連携）

遊びきる事が、やがて夢や希望に向かって学び続け、チャレンジすることへ繋がると信じ、そして私たちも遊びきることでできる保育者を目指して保育を創造していこう！という気持ちで研修会を閉じました。秋に行われる初任・初級保育士研修②で、どのような実践が持ち寄られるのか、今からとても楽しみです。



## <本の紹介>

### 「からす たろう」

作・絵：八島 太郎  
 出版社：偕成社  
 ISBN：978-4-03-960040-0  
 定価 1,800円(税別)



この作品は、学校に居場所を見つけられず存在を認められていない主人公を見守り導き、彼の生活の背景を改めて同級生たちに気付かせ、さらに彼の特技を披露する機会を与えたというお話です。古き良き、日本の里山。そんな懐かしい風景が、独特な作風とともにページいっぱいに広がっています。「からすたろう」の気持ちに寄り添って、そして、目の前の子どもたちに寄り添って、どうするべきかを、じっくり考えることができる作品です。この絵本に出てくるような人間味のあ

る、一人ひとりをきちんと見てくれる先生がこれからも、もっともっと増えることを願います。大人も子どももたくさんの方がこの絵本を読んでくれますように……。

### 「子どもが育つ魔法の言葉」

著：ドロシー・ローノルト  
 出版社：PHP研究所  
 ISBN：978-4-569-66023-3  
 定価 552円(税別)



けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる。愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ——世界23カ国で愛読されている大ベストセラー作品で、皆さんもご存知の方もたくさんおられると思いますが、あえて紹介します。「大人が手を抜くと子供も手を抜きますねえ」この書は、大人が、子どもたちに「こうして欲しい



こと」をしてもらうためには、大人がして見せることが有効であることを教えてください。子どもは、大人の言うことは聞きませんが、真似はします。真似て学びます。もっともっと一人ひとりの子どもにとことん付き合っていきたいと思います。とことん付き合う人になって欲しいから。

## 「いろいろバス」

作：ツペラ ツペラ(tupera tupera)

出版社：大日本図書

ISBN：978-4-477-02659-6

定価 1,300円(税別)



赤いバスから降りてきたのは、ごろごろ大きな真っ赤なトマト。驚いている間もなく、今度乗車するのはやっぱり赤い、にゅるとタコ。黄色のバスから降りてきたものはふんわり美味しそうな“オムレツ”。緑のバスから降りてき

たのは伝説の“かっぱ”で、乗っていったのはゆっさり大きな緑の木。黒いバスからは想像をはるかに超えたスケールの大きさの“くじら”、乗っていったのは想像もつかないもので“かげ”。ページをめくるたびに意表をつかれます。やがてたくさんの乗客を乗せたバスが帰ってきて、間もなく終点！赤、黄色、緑、黒、ピンク、白、茶色のバスから一斉に降りてくる場面は圧巻です。気になっていた運転手さんも姿を見せてくれます。



新会計基準に子ども子育て新制度と来て、お次は、マイナンバー制度ですか、何かと制度に四苦八苦する今日この頃です。あーこりゃこりゃ。  
(H・S)

今年の夏は、保育園でたくさんの蝶の誕生に出会いました。ツマグロヒョウモン、アゲハの仲間、そしてスズメガまで。特にツマグロヒョウモンの、幼虫から蛹、成虫に変化していく過程は、その美しさ不思議さに、子どもも大人も感動ひとしおでした。  
ステキな夏の体験に感謝です！  
(K・M)

運動会の資料集めで恐竜の図鑑を見ていたら、使用中のものと生え替わりのものと合わせて550〜1400本の歯があることを知りました。「デンタルバッテリー」と言うそうです。羨ましい限りです。大人になって見ると図鑑って面白いですね。  
(J・R)

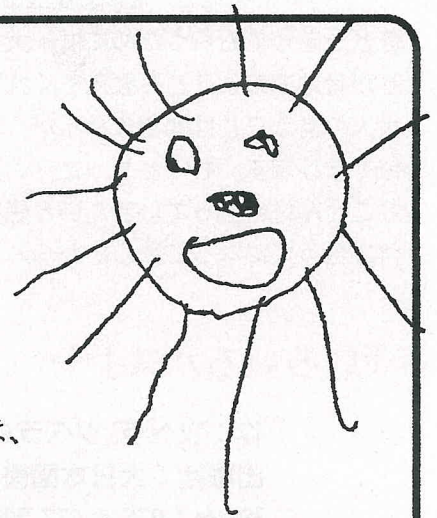
この秋初めて口にした梨「なっひめ」の美味しさは、衝撃でした。今までは「秋菜」が好きだったのですが、私の中で1位2位を争う美味しさでした。

人がふるさとを想う時、そこには大好きな人、風景、そしておいしい味わいも欠かせないものだと思います。梨をほおばりながら、鳥取に生まれてよかったと思う今日この頃です。  
(M・K)

秋風の立つ前、残暑の頃ぼっかり時間が空きました。今流行の「火花」を読もうか？それとも……「理想にとらわれない生き方」「養生のヒント」etc. 心にゆとり・生活にうるおい”を求めて……  
気付けば2冊の本を読破しました。  
(K・K)

最近の子どもは、外出中など暇さえあればゲームばかりして目を見て話せないことに嘆く今日この頃。ふと自分を振り返ってみると、携帯をして夢中になっている自分がいた。……大人って都合がいいですね。  
(K・K)

# 園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。  
 (公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、  
 園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する  
 各種保険を取り扱っております。

## ほいくのほけん (旧：全私保連保険制度)

「園賠償責任保険」  
 「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険)」  
 「特別保育事業賠償責任保険」  
 など、園経営におけるリスクに関する保険を  
 ラインナップしています。また、それらを総合的に  
 補償するセットプランもご用意しております。

## 園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する  
 共済制度(こども総合保険)です。  
 保育者にとっては一般契約に比べて  
 団体契約による割引の適用で割安な掛金で  
 補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。  
 ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

### 有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内  
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

#### 〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社  
 担当課：公務第二部 公務第一課  
 TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保  
 険・学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・  
 こども総合保険の概要についてご紹介したもので  
 す。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧  
 ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私  
 立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、  
 ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会  
 社までお問い合わせください。また、ご加入にあつ  
 ては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

